

# 『大谷本廟』蓮舟寺納骨壇 納骨（分骨）のしおり

大谷本廟へご納骨（分骨）される蓮舟寺門徒の皆様へ

この度は、亡き方を縁として大谷本廟へのご納骨（分骨）をされ、京都でもお法を相続されますこと大慶至極に存じます。

大谷本廟は、宗祖親鸞聖人のご廟所（墓所）であり、祖廟とも呼ばれています。

親鸞聖人は、1262（弘長二）年11月28日（新暦1263年1月16日）、現在の住坊別院において90歳でご往生になり、鳥辺山南辺（現在の本廟の「御茶毘所」）で火葬、ご遺骨は鳥辺野北辺の「大谷」に納められました。

その後、聖人の末娘である覚信尼さまが、諸国の門弟の協力を得て、ご遺骨を吉水の北辺（現在の知恩院山門北側の「崇泰院」付近）に改葬し、お堂を建てご影像を安置されました。

このご廟は「大谷影堂」とも呼ばれ、後に「大谷本願寺」となり、第八代蓮如宗主時代の「寛正の法難」（1465年）まで、およそ二百年間、諸国の門弟や同行によって護持されてきました。

以後、第十二代准如宗主時代の1603（慶長8）年、徳川幕府の政策によって五条坂の現在地に移転し、この地を「大谷」と呼ぶようになりました。

以来、長い年月を経た現在も「大谷本廟」は、宗祖親鸞聖人のみ教えを仰ぎ、お念仏のよろこびに生かされる門信徒の方々によって立派に護持されています。

蓮舟寺も蓮舟寺門徒の納骨場所を求め、由緒にならない親鸞聖人の廟所へ分骨させていただき、法縁をつないでまいりました。

どうか、このご縁が深いご法縁となられますようお願い申し上げます。

道中お気をつけて。合掌  
蓮舟寺住職 釋卓慈

追記・・・大谷本廟の納骨壇の空きが無くなり、全ての方に納骨頂くことが難しくなったことから、平成25年より、蓮舟寺納骨壇への納骨（分骨）は、

一遺骨一骨瓶の納骨から、一家族一骨瓶で納めて頂くことに**変更**となりました。

後代の方々も、分骨できる様、ご理解とご協力をお願いいたします。

初めて分骨する方、そして複数のご遺骨がある家庭は、2年に一度に実施する参拝旅行へ蓮舟寺住職と併にお出かけ頂き、分骨、ならびに、ご遺骨を一つの骨瓶にまとめる手続きをして下さい。

## 行き先

浄土真宗本願寺派 本願寺 おおたにほんびょう 大谷本廟（西大谷）

〒605-0846 京都市東山区五条橋東6丁目514

TEL 075-531-4171

・受付は平日9時（休日8時30分）～15時30分までです。

## 私のお寺

東京教区静岡西組 れんしゅうじ 蓮舟寺（寺院番号 03-15-08）

〒437-1304 静岡県掛川市西大渕1260

TEL 0537-48-2451

# 大谷本廟『第一無量寿堂納骨』参拝手順

## 【出発前に・・・】

①出発前に、お家のお仏壇の阿弥陀さまに大谷本廟へ分骨する旨を報告し、掌を合わせましょう。

※忘れ物はありませんか？チェックしましょう。

◇ご遺骨（ひとかけら だけです。舍利骨は骨を崩さなければならないため、お勧めしません）

◇納骨届（住職証明済のもの）

◇懇志（一遺骨 5,000 円以上）

◇おまいり 3 点セット（お念珠、式章、お教本）

◇細マジック（骨瓶に法名等を記入するためです。筆、ボールペンでも良いです。）

◇ボールペン（備え付けの過去帳に記すために用います。）

念のため、法名、俗名、命日等を控えておきましょう。

<法 名> ( ) 院 釋 ( )

<俗 名> ( )

<命 日> 年 月 日

<納骨日> 平成 年 月 日

<参拝者> ( )

それではお気をつけて行ってらっしゃいませ。

## 【京都に着いたら・・・】

②本願寺へ参拝してから、大谷本廟へ参りましょう。

・本山から大谷本廟へ無料循環バスが運行（土日祝日）されています。

## 【大谷本廟へ着いたら・・・】

③式章をかけ、お念珠もち、山門で一礼をして境内に入りましょう。

・たしなみとして、山門右手の水屋で手を洗い、口をゆすぎ、衣服を整えます。

④水屋の先にある、総合受付と売店に向かいます。

【初めて納骨（分骨）される方・・・へ】

【2回目以降の納骨（分骨）の方・・・へ】

## 【初めて納骨（分骨）される方】

- ⑤入って右手に売店がありますので、骨瓶「R」型を購入して下さい。
- ・一つの骨瓶に六遺骨まで納めますので、多量の骨、大きい骨は納めることができません。
  - ・お花、お供えは売店で求めることが出来ます。
- ⑥売店と総合受付の間に、納骨場所があります。そこで、骨瓶に遺骨をお納め下さい。
- ⑦骨瓶に納めたら、骨瓶側面に「法名」「氏名」「命日」を記入します。
- ・骨瓶の上部には、「△△市□□ ○○家」とマジックで記入しましょう
- ⑧総合受付に移動。参拝受付をし、納骨届を提出します。
- ・参拝日、申込者の住所、氏名、参拝人数は必ず事前に記入して下さい。
  - ・納骨所での読経をお願いし、懇志額は、一遺骨 5,000 円以上お納め下さい。表書は「納骨懇志」
- ⑨蓮舟寺の納骨壇へ移動します。 【 第一無量寿堂 1階 る列 70号 】
- ・通常納骨の時には、大谷本廟の僧侶がカギをもって案内してくれます。
  - ・入口は6階になります。エレベーターを使用して1階に下り、右手になります。)
- ⑩納骨壇の前に立って一礼し、納骨とお勤めの準備をしましょう。
- ・仏壇の扉を開き、香炉、香盒、お花立てを準備します。
  - ・過去帳を出し、命日の日に「法名」「俗名」「往生した年月」を記入します。  
(過去帳は2冊あります。一冊目の命日に記入出来ない場合は、2冊目に記入しましょう。)
  - ・無量寿堂内では、ロウソクやお線香が使用出来ません。備えつけのお香をお使い下さい。
  - ・骨瓶を引き出しの中に納めて、閉じます。(大谷本廟の僧侶がお手伝いしてくれます。)

つづき・・・ へ

## 【2回目以降の納骨（分骨）の方】

- ⑪入って左手の総合受付に移動。参拝受付をし、納骨届を提出します。
- ・「蓮舟寺の納骨壇に、当○○家の骨瓶（R型）があり、その中に納めます。」と申し出て下さい。
  - ・参拝日、申込者の住所、氏名、参拝人数は必ず事前に記入して下さい。
  - ・納骨所での読経をお願いし、懇志額は、一遺骨 5,000 円以上お納め下さい。表書は「納骨懇志」
- ⑫蓮舟寺の納骨壇へ移動します。 【 第一無量寿堂 1階 る列 70号 】
- ・通常納骨の時には、大谷本廟の僧侶がカギをもって案内してくれます。
  - ・入口は6階になります。エレベーターを使用して1階に下り、右手になります。)
- ⑬納骨壇の前に立って一礼し、納骨をします。
- ・一つの骨瓶に六遺骨まで納めますので、多量の骨、大きい骨は納めることができません。
  - ・もともとの遺骨が多い場合は、もとの遺骨を崩してスペースをあげます。遺骨は崩れても往生の妨げになりません。ご安心下さい。
  - ・骨瓶に納めたら、骨瓶側面に「法名」「氏名」「命日」を記入します。
  - ・骨瓶の上部には、「△△市□□ ○○家」とマジックで記入しましょう
- ⑭お勤めの準備をしましょう。
- ・仏壇の扉を開き、香炉、香盒、お花立てを準備します。
  - ・お花、お供えは売店で求めることが出来ます。
  - ・過去帳を出し、命日の日に「法名」「俗名」「往生した年月」を記入します。  
(過去帳は2冊あります。一冊目の命日に記入出来ない場合は、2冊目に記入しましょう。)
  - ・無量寿堂内では、ロウソクやお線香が使用出来ません。備えつけのお香をお使い下さい。
  - ・骨瓶を引き出しの中に納めて、閉じます。(大谷本廟の僧侶がお手伝いしてくれます。)

つづき・・・ へ

⑮合掌の後、僧侶とともに読経します。ご一緒にお勤めしましょう。

⑯お勤めが終わったら、お道具を片付け、一礼して退出します。

- ・蓮舟寺の全ての門徒が使用する納骨壇です。綺麗にしてお帰り下さい。
- ・お花は一旦お下げして、明著堂へお供えいたしましょう。
- ・お供えは「おさがり」として持ち帰りましょう。

⑰『明著堂』へ参拝しましょう。

⑱山門で一礼の後、門を出ます。お疲れ様でした。お気をつけてお帰り下さい。

### 【帰宅したら・・・】

⑲お家に帰りましたら、お内仏（各家のお仏壇のご本尊）に納骨のご報告をしましょう。

- ・帰宅されましたら、納骨を済ませた旨のご連絡をお願いします。
- ・お気づきの点がありましたら、教えて下さい。

⑳納骨（分骨）から一番直近の月命日に、お寺へ参り本堂の阿弥陀さまにご報告をしましょう。

### 【その他】

・納骨に限らず、京都へ行かれたら、いつでも おまいり 出来ます。その折には、受付で一座経のお願いをしましょう。

（ご遺骨が納まっている棚は、納骨時か、住職が同行していなければ開けることが出来ません。）

・蓮舟寺では、2年に一度、本山参拝とともに、大谷本廟へも参拝します。納骨時に限らず、どうぞ家族と一緒に参拝いたしましょう。

・祖壇納骨（親鸞聖人のご墓所近くへの納骨）

蓮舟寺納骨壇に納めずに、親鸞聖人のご墓所近くへの納骨が出来ます。

同じく蓮舟寺住職の証明が必要となります。詳しくは住職にお尋ねください。

・お彼岸、お盆等の時期は大谷本廟の駐車場が閉鎖されますので、ご注意下さい。出来るだけ公共交通機関を利用されますことをお勧めします。土日祝日は本願寺より無料循環バスもあります。